

マックスシールプレス

平成19年6月号



《写真》昭和41年開設当時の異外科病院(左)と池内彰名誉院長(右)

マックスシール対談

小田垣 「対談2回目は、歴史あるこの病院の事を詳しく知って頂くために、名誉院長池内先生にお話を伺う事にしました。まずは、病院の開院の経緯をお願い致します。」

池内 「昭和22年に初代院長 巽 馨先生が石橋の商店街の現在パチンコ屋のある所に、診療所として開設されました。そして、その後を先代院長の巽 亘先生が継ぐこととなりました。亘先生は、京都大学卒業後、名古屋市立大学の助教授をされていた先生で、いろいろ話す機会があつて、診療所ではなくやはり病院で臨床をしたいと強く考えておられたんですね。そんな事もあり二人で病院を開設する事となり昭和41年12月8日現在の場所に30床の異外科病院を建てたんです。」

小田垣 「当初はこの辺りはどんな感じでしたか？」

池内 「まわりはすべて田んぼの状態でした。」

小田垣 「その頃の診療はいかがでしたか？」

池内 「この書面があるように(右下)、亘先生はこの目標を掲げ診療にあたっていました。みんなが家族のように接していました。何時でもどんな時でもどんな病気で診療するという姿勢でした。外来はかなり時間がかかると評判でした。(笑)何故かという、診療だけではなく、その患者さんの家族の悩みやいろいろな相談まで話を聞いていて、人によっては恋の悩みまで相談に乗っていました。今で言うと、医者でありコンサルタントでありケアマネであったりしました。ただそのような診療をしていたので、長時間でも患者さんは待ってくれました。」

小田垣 「その頃のエピソードなんかありますか？」

池内 「亘院長は、とても患者さん思いの方で、亡くなった患者さんがいればお参りにもよく行かれていました。ほんとに心から人を愛する人だと思っております。それと、看護師を含め職員の定着率も驚く程高くて、みなさん辞める事もなく、よく仕事をして頂きました。すべては、皆家族だったのだと思います。」

小田垣 「素晴らしい事ですね。今の日本の病院事情では考えられない事です。その頃もやはり救急などで大変だったのではないですか？」

池内 「いやいや、今のような救急車などは受けていなかったんです。ただし、先ほども言いましたが、“何時でも来てくれていい”というスタンスでやっておりましたから、救急車などは使わず病院に患者さんが来ていました。病院自体すべてがオープンな雰囲気での診療をしていました。」

小田垣 「ところで、今の異病院をちょっと一歩引いた立場でご覧になっていかがですか？」

池内 「いやあ 素晴らしいと思います。みんなが、巽孝彦院長のもと一つの目標に向かって一致団結しているので心強く思います。ほんとに素晴らしいですな。」

小田垣 「有り難うございます。最後にみんなにアドバイスと座右の銘など頂ければ有り難いのですが？」

池内 「みんなほんと一生懸命働いてもらってるんですが、最近はプライバシーやその他いろいろあつて、細かくきちとしなければならぬ時代です。しかしそんな状態をずっと持続していくのは大変です。時には肩の荷をおろして気を抜くところを作る事も大切です。

余暇を楽しんで、仕事もがんばって頂きたいと思っております。座右の銘は 鬼手佛心 」

より善き、病院への
前進と発展の爲に
豊かなる建設的意見と
積極的な相互の理解と信頼と
ともに 夢を 喜び 楽しみ 職務と
つくりま



《開設当時の写真》
先代院長の巽亘先生(左)と池内彰名誉院長(右)

部署紹介(巽今宮病院)

顧客秘書課 マネージャー 油谷 英樹



皆様のご存知の通り、医療法人マックシールで慢性期医療を担うのが、箕面の緑多き山近くに有る巽今宮病院です。

顧客秘書課はこの巽今宮病院で医療事務を中心に、女性4名男性1名の少人数ゆえのチームワークの良さで頑張っています。巽今宮病院の2階の回復期病棟及び3階の療養病棟は急性期病棟と違い、長期で入院されている患者様が多く、ご家族の方とも顔見知りになりアットホームな雰囲気です。我々顧客秘書課のスタッフは、患者様とご家族に対していつも笑顔で接し、「この病院に来て、本当に良かった」と感じてもらえるように日々努力をしています。

開院から1年が経ち、やっと顧客秘書課としての形が出来つつありますが、まだこれからも医療法人マックシールの一員として努力していきたいと思えます。

病気アラカルト

大腸ポリープのお話 副院長 田中 雅也

近年、食事の欧米化に伴い、大腸ポリープが増加傾向にあると言われています。大腸ポリープは腫瘍性のものが多く、そのほとんどが良性ですが、中には小さいながらも悪性腫瘍、つまり癌があり、また、その時点で良性であっても将来的に癌が混じってくる可能性もあります。みつけた時点で摘除することが一般的となっており、小さく、粘膜内にとどまっている段階であれば、おなかを切って手術をすることなく、内視鏡を利用して摘除することができるため、できるだけ早くにみつける必要があります。

大腸の検査にはバリウムを使って行う造影検査と内視鏡検査があります。造影検査は全体像がみることができる反面、直接ではなく、影を見る検査であり、放射線を使わなければいけないという短所があります。一方、内視鏡検査はのぞき窓からみているようなイメージのため、見落とすこともあり、全体の把握はできませんが、直接色、形をみるのが可能であり、なによりも一部の組織を採取することにより、良悪性を顕微鏡で調べることができる強みがあります。腸の中には常に便があるため、いずれの検査も、腸を空っぽにする前処置をしなければならないという煩わしさがあり、敬遠されがちです。特に、内視鏡検査は痛くて苦しいというイメージもあり、検査を勧めても、希望されないこともしばしばあります。しかし、大腸ポリープは症状がなく、検査をして偶然にみつかることがほとんどであり、検査をしないことには始まらないのです。検診などをきっかけに大腸の詳しい検査を勧められた場合には、積極的に検査を受けるようにして下さい。

院内行事予定

院内発表会 院内地域連携室 室長補佐 田之頭 直

医療法人マックシールには池田市にある巽病院と巽介護老人保健施設、箕面市にある巽今宮病院があります。各々の施設には様々な組織と部署があります。これら多くの部署の業務を知り、部署間の相互理解を推進することはとても大切なことです。

「院内発表会」は医療法人マックシールの年間行事の一つとして位置付けられ、すべての部署が様々な取り組みや目標を発表しあう場となっています。このような活動を通じて、職員間のコミュニケーションを図ることができればより一層の業務の効率化が図れます。そして、引いては患者さまへの医療・福祉・介護サービスの向上に繋がっていくものであると確信しています。